

日時：平成24年4月21日（土）14：00～16：15

場所：総合保健福祉センター りんくる 2階交流活動室

【 当 日 の 内 容 】

14：00

◆ 開会

14：00～14：05

◆ 主催者挨拶（石狩市 総務部／佐々木 隆哉 部長）

14：05～14：10

◆ 地区別ワークショップの目的についての説明（事務局／株ドーコン）
・ 自助、共助を基本とした地域防災力の向上！

14：10～14：20

◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
・ グループ別意見交換の進め方
・ 情報提供資料

14：20～15：50

◆ グループ別意見交換
・ 想定される災害種別と被害の内容
・ 地区特有の防災上の課題

15：50～16：15

◆ グループ別意見の発表
・ 各グループ代表者から発表

16：15

◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

Aグループ（7名）

- ・地震、津波、水害の3つの災害と地震による火災や建物倒壊に不安がある。
- ・避難所の耐震性能や収容人数等について検証されているのか心配である。
- ・茨戸川は治水整備がなされ洪水の可能性はあまりないと思う。しかし、茨戸川が津波の通り道になる危険性があり、当地区の海拔は概ね5mと低いため不安である。
- ・水害の可能性の低い地区だが、厚田や浜益で発生したような集中豪雨の場合はどんな被害を受けるのか不安がある。



Bグループ（6名）

- ・地震とこれに伴う津波や洪水が心配である。
- ・緑苑台団地周辺は、イオンなどの商業施設や小学校、住宅が混在し多くの人々がいるため、避難場所や避難ルートの確保が課題と思う。
- ・避難所のスペースや避難所への移動方法の検討のほか、子どもたちへの対応や防災教育などが必要ではないか。
- ・独り暮らしの高齢者などへの周囲の住民の目配りが重要と思う。
- ・避難や復旧について札幌との連携が必要ではないか。
- ・冬の災害への対応も想定すべき。
- ・避難所の備蓄や設備がどの程度あるのか心配である。
- ・市全体として災害時における情報伝達はどうなっているのか。町内に点在するスピーカーなどでの避難の呼びかけが必要ではないか。情報伝達の設備も必要ではないか。
- ・堤防の崩壊や想定外の津波が来た場合の備えも必要と思う。



Cグループ（12名）

- ・地震や津波の想定がどのくらいなのか心配である。
- ・この地区は多くが平地なので、津波に備えた避難所をどうすべきか考える必要がある。
- ・指定避難場所に行くまでに被災する可能性があるため、近くに仮の避難場所を決めて集まり、そこで情報収集を行った上で避難行動に移った方が良いのではないかと懸念している。
- ・地区内に幼稚園があるので、子ども達の避難誘導の仕方を考えておくべき。近隣の人々の協力が必要である。
- ・防災訓練は従来のやり方ではなく、人口の高齢化を踏まえた実効性のある内容にする必要がある。
- ・避難所に指定されている学校に一度に多くの人々が避難した場合に収容できるかどうか懸念している。
- ・町内には迷路のような街区があり、車が通り抜けできない所も多い。避難する車両や緊急車両が出入りできなくなるおそれがある。
- ・避難所が近くにないため、札幌まで避難する必要がある。しかし、遠すぎるためどうすべきか考える必要がある。
- ・小学校にある備蓄品の数は少ないのではないかと懸念している。備蓄品は分散して備えるべきではないかと懸念している。
- ・高齢者の対応は1つの町内会では限界があるので、町内会同士の連携等を検討すべき。



Dグループ（7名）

- ・津波、地震、川の氾濫が起こる可能性がある。
- ・特に地震による液状化が心配され、ライフラインの損傷もありうる。
- ・小学校以外に高い場所がなく、逃げる場所がない。
- ・用水路が満杯になると、水浸しになる可能性がある。
- ・この地区の地盤は、砂地に土が堆積してできているらしいため、液状化は避けられないのではないかと懸念している。
- ・防災無線はどうなっているのか確認が必要である。
- ・地震でポプラ並木が倒れることを懸念している。



Eグループ（6名）

- ・町内会組織は1年で交代するため、防災に関する問題意識が欠如している。地区や組織として防災意識の向上が必要である。
- ・地域住民と小学校や保育園などの組織との連携など、地域内の仕組みづくりが必要ではないか。
- ・老人世帯をどのように避難させるかが検討課題である。
- ・防災資機材は、従来のように各町内に分散せず、水や食料と一緒に避難場所にまとめておく方がよいのではないか。
- ・避難訓練を年に1回は必ず実施し、住民意識の定着が必要と思う。



Fグループ（7名）

- ・起こりうる災害に対しどの程度の被害が予想されるのか情報が欲しい。
- ・災害が起きた際の情報をどのように住民に伝えるのか検討すべき。
- ・地域の高齢者の避難誘導をどうしていくか検討すべき。
- ・保育園と地域が連携した防災訓練などが効果的と思う。
- ・避難所に指定されている中学校の収容人数などの施設の仕様を把握しておくべき。
- ・液状化が懸念される。どの場所でのどの程度の液状化が起こりうるのか、情報がほしい。

